



# 無停止型クラスタソフトウェア Avance™セットアップ手順

2013年12月

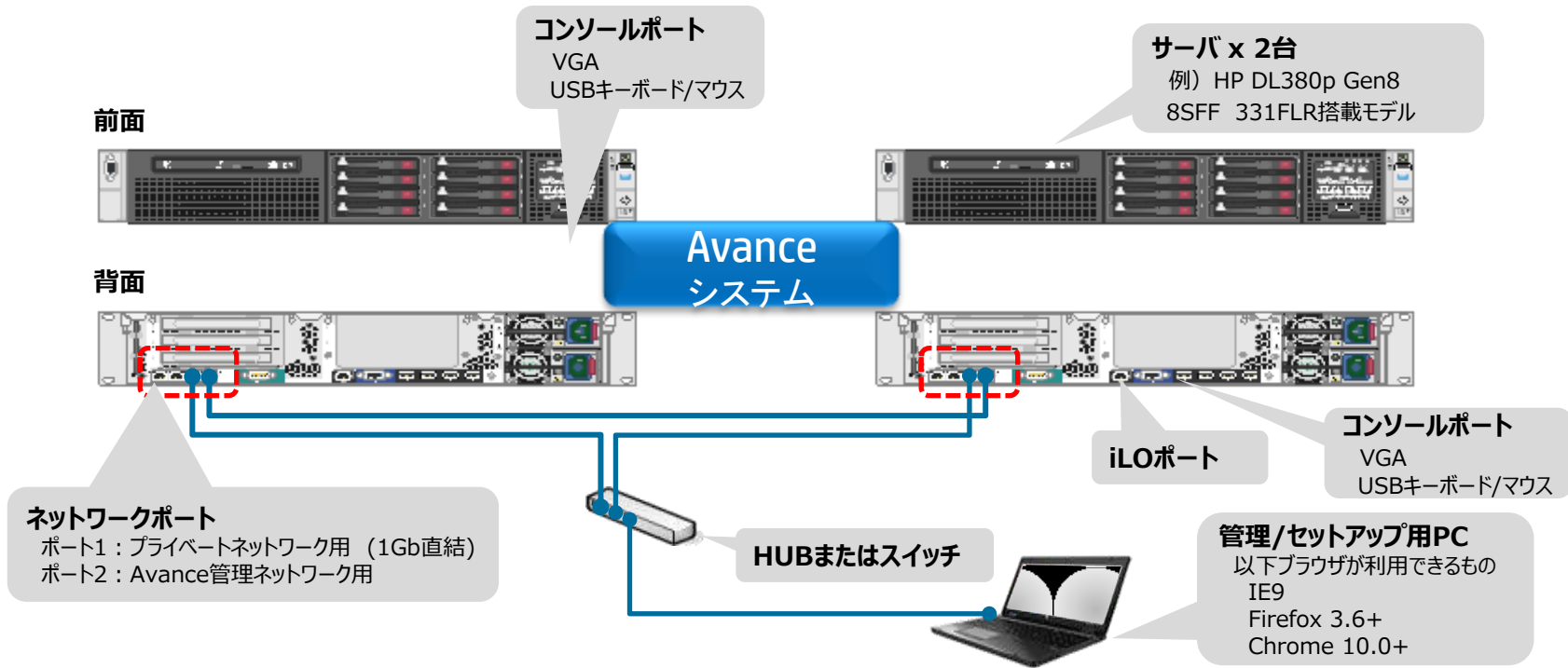
日本ヒューレット・パッカード株式会社

# Avance導入~セットアップの流れ



# サーバのネットワーク接続

基本構成：サーバx2台 + HUB/スイッチ+LANケーブル + 管理/セットアップ用PC



※ BIOSを設定する場合にはサーバにコンソールを直接接続するかiLO(仮想コンソール)を利用します

# サーバのBIOS/RAID構成設定

サーバx2台のブート順序設定とRAID構成をあらかじめ設定します



DL380p Gen8での設定例)

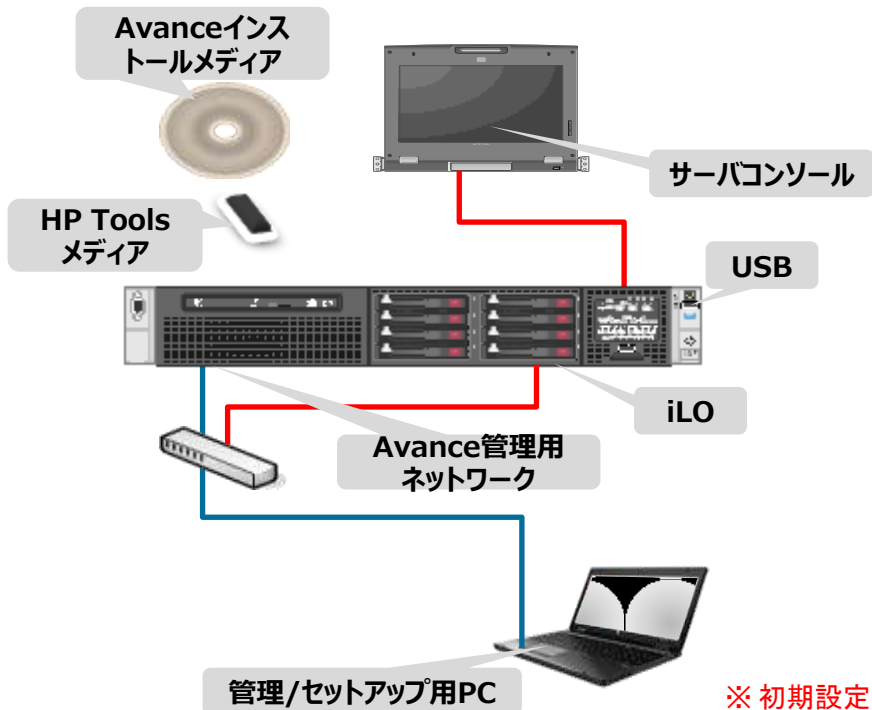
起動後の設定メニューから以下設定を行います

1. NICのネットワークブート設定
  - RBSU(ROM-Based Setup Utility) でNIC 1のネットワークブート設定を行います
2. ブート順序の設定
  - RBSUからブート順序の設定を行います
    - Optical Drive(DVD/CDドライブ)
    - PCI Embedded HP Multifunction 1Gb Adapter Port1
    - Hard Drive C:
3. RAID構成※
  - Option ROM ConfigurationのArray設定画面もしくはRAID Configuration Utilityを利用して論理ボリュームの作成を行います

※ RAIDの構成は2台で同じ設定にします

# 1台目インストール (コンソール操作)

初期設定 : コンソールを利用しメディアからAvanceソフトウェアをインストールします



Avance ブートメディア(CD)から起動し「Install Avance」を選択



HP Tools (USBメモリ) の読み込み



IPアドレスの入力

Quick Connect : セットアップ用のテンポラリIP  
Config IP : 恒久的に利用するIP



IPアドレス設定後はサーバはリブートし、その後のセットアップはセットアップ用PCのブラウザから設定したアドレスに「Avance Portal」接続して行います

※ 初期設定を行う際はサーバにコンソールを直接接続するかiLO(仮想コンソール)を利用します

# 1台目インストール (ブラウザ操作)

設定のつづき:ブラウザからAvanceサーバに接続してセットアップを行います



言語の選択を行います。画面に従って設定を行います



ライセンス使用許諾に「Accept」(承諾)します



サーバの互換性/ハードディスクチェック



IPアドレスの設定



日時の設定



アラートの設定

- EALERT
- SNMP



インストール開始



ライセンスキーのアップロード  
「SKIP」

# 2台目インストール (ブラウザ操作)

引き続きブラウザからAvanceサーバに接続してセットアップを行います



セカンダリノードの追加を行います  
画面に従って進めていきます



2台目の電源投入



自動的に1台目からシステムのロードが行われ、冗長化が行われます



冗長化の完了



# ライセンスアクティベート

## インターネットに接続された環境/非接続環境



アクティベーションキー

ライセンスキー



インターネットに接続された環境の場合  
アクティベーションキーのダウンロードと登録が自動的に行われます



Stratus社のサイトへ直接ライセンスキーのアップロードを行います



アクティベーションキーがダウンロードされアクティブ化がおこなわれます



インターネットに接続されていない環境の場合

以下手順にて手動のアップロード、ダウンロード/登録を行います



インターネットに接続された環境からライセンスキーのアップロードを行い、アクティベーションキーを入手します



入手したアクティベーションキーをサーバーへ登録しアクティブ化を行います



# ライブラリ作成

仮想環境で利用可能な仮想CDを作成します



仮想CD作成ウィザードを利用して作成します  
仮想CDは以下の方法から作成可能です

- 物理メディアから作成
- ネットワーク上のisoファイルをURL指定して作成
- isoファイルをアップロードして作成

OSなどの他パッチやドライバなどが入ったメディアも同様に仮想CDとして作成し、ライブラリに登録することで仮想環境から利用可能になります

- xen仮想環境用PVドライバ等(windows用)

# 仮想マシン作成

仮想マシンの作成はウィザードを使ってリソースを決定します



仮想マシン作成ウィザードを利用して作成します  
仮想マシンは以下の手順で作成します



ウィザードに従って仮想マシンが利用するリソース  
を選択・決定します



マシン名, vCPU数, メモリサイズ



仮想CD (OSメディア)



ディスクサイズ



接続するネットワーク

仮想マシンの作成が行われ仮想コンソールが起動  
するとOSインストール画面が立ち上がります

# OSインストール

OS固有の設定を行った後、必要なパッチ・ドライバ類を続けてインストールします



仮想コンソール上でOSのインストールおよびセットアップを行います

Avanceのバージョン/仮想OSバージョンによって必要となるドライバ類を準備します(仮想マシンからVCDを選択してマウント)



## Windows系OSの場合

.NETframework等のアップデート  
xen PVドライバのインストール



## Linux系OSの場合

特別なドライバは不要

仮想マシンの作成が正常に終了すると管理画面に仮想マシンが現れます

